

手賀の丘少年自然の家 研修事業

自然体験活動指導者研修会

渋谷孝子（流山市）

日 時：2013年11月17日（日）9時30分～15時30分 天気：晴

場 所：千葉県立手賀の丘少年自然の家および手賀の丘公園（柏市）

受講者：26名（教師小学校10名、中学校6名、高校2名、団体指導者5名、施設職員3名）

参加会員：内久根、渋谷、日野原、三嶋（4名）

手賀の丘少年自然の家では、昨年までは講師の先生を迎えて1泊で行ってきた県の事業「自然体験活動指導者研修会」を今年は施設の行事として独自に実施することとなり、全体の流れの相談や自然観察指導などお手伝いをしました。タイトなスケジュールでしたが、参加の皆さんの協力で無事終了しました。

午前：講義1「自然観察指導員から見た自然体験活動及び安全について」 ①指導の基盤はコミュニケーション ②指導者の話し方・聴き方・立ち位置・集まり方・服装 ③自然観察の技術と手法 ④フィールドマナー ⑤森の危険な生き物

体験学習1「楽しく自然を観察できる3つの体験」 3班に分かれローテーションで自然観察指導員による「フィールドビンゴ」「不思議発見」「保護色ゲーム」

午後：体験学習2「季節と場所に合わせて自然観察をやってみよう」 7班に分かれ「手賀の丘公園の調査隊・調査ファイル」を利用して実際に自分で自然体験を指導してみる。

講義2「養護の先生から見た自然体験活動における安全管理について」

<担当者の感想>

午前の講義の部分の担当、夏前から少しずつ準備したものの、当日は頭の中が真っ白になり、何を話したのかも良く覚えていない。その後の体験学習1ではこのような活動（観察会等）は初めてという若い先生方がほとんどだったが、キノコやカエル・モグラ塚などを皆でしげしげ眺め、生き物たちの暮らしぶりやつながりを知る観察会の一端を体験していただけたと思う。体験学習2ではこちらの準備したプログラムを各自が工夫して上手に活動していました。この体験が役立つ事を願っています。（内久根）

フィールドビンゴでは時間が短かったので16コマ全部を探すことはできませんでしたが、クモの巣（本当は網と伝えた）に霧吹きで水をかけるときらきら光って、「綺麗！」と歓声が上がったグループもありました。午後の体験学習では参加者の半数以上が学校の先生だった為か、生徒への問いかけ等参考になった所がありました。参加者から「生活科等の授業では名前を教えていたけれど、名前が分からなくてもこんなに楽しめることを知りました」と言われた時には「やったー！」と思いました。（日野原）

3色（赤、緑、木肌色）のバツタ（楊枝）各50本を地面に撒いて、ムクドリになったつもりで皆で拾う「保護色ゲーム」で、赤いバツタはほとんど見つかり、「もし貴方がバツタに生まれるとしたら何色がいい？」「テントウムシはなぜ目立つ色？」「触角が長ければ夜行性かも、前脚のトゲは生きた獲物をつかまえるためかも…自然の形には意味があるはず」などとお話ししました。こちらの準備の失敗もありましたが、それも含めた学びを生かして、参加者の皆さんは、今後積極的に自然体験に取り組んでくださることでしよう。（渋谷）



フィールドビンゴ：ここにキノコがありますね